



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2022年3月6日

№. 94

「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」
という声が雲の中から聞こえた。
ルカによる福音書 9章35節



礼拝献花より

御言葉に生きる

実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。
ローマの信徒への手紙 10章17節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『十字架の声』

牧師 佐藤和宏

ルカ9章28〜36節

今日は「主の変容」という日曜日になります。福音の日課にありますように、主イエスの姿が変わり、その服は真っ白に輝いたのでした。今日はまず、この主の変容という日について、触れたいと思います。

ルターは「十字架をもとにするなら、本物の十字架をもとにするべきである」と勧め、こうしてキリストの十字架を40日にわたって、特に心に刻む、四旬節の直前に「主の変容」が設定されたのでした。

「本物の十字架」とは、もちろん主キリストが上げられた十字架を指すわけですが、その意味するところ、その内容を明確にすることで、ルターの言う「本物の十字架」としてとらえることができるのではないかと考えます。そこで、第二の朗読に目を向けてみたいと思います。それは「このような希望を抱いているので」と始まっています。ここで言われて

いる「このような希望」とは、直前に見ることができるので読んでまいります。「聖書略（コリント二3章7節以下）」モーセの顔が輝くという一時的な栄光、律法の栄光を失わせるほどの栄光が、キリストの十字架にあふれていると言っているのです。「このような希望」について、パウロは書いているのです。そしてこれが、「本物の十字架」への希望なのです。

今日、主の変容の出来事から知られるのは、礼拝のたびに、「本物のキリストの十字架」を仰ぎ、その栄光の輝きの意味を再認識する重要性についてです。

主の変容の出来事は、本物のキリストの十字架をもとにする出来事でした。しかしペトロは、イエスの顔の様子が変わり、その服が真っ白に輝いたのを見たとき、「仮小屋を三つ建てましょう」と提案したのでした。「自分でも何を言っているのか、分からなかった」とあるように、この世のものとは思えない、その輝きに驚いたのでした。そしてそれを「残したい」と考えたのでした。この時、ペトロは大きな誤解をしていました。

イエスの変容の輝きは確かに栄光の輝きなのですが、それは私たちが期待するような栄光ではなく、それは律法のもたらした栄光を、もはや失わせる十字架の輝きなのです。「十字架」と「栄光」の輝きとは、結びつかないように私たちには見え、でしょう。しかし神の御心は、両者を確かに結びつけるのです。主の変容の出来事を、本物の十字架と結びつけてとらえる必要性をルターは訴えました。まさに本物の十字架を今、見つめることが私たちに求められているのです。

主なる神は、次のように告げられました。「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」。私たちは、自分たちの期待や経験に基づいて物事を判断するでしょう。ペトロの判断も、私たちが人間による判断の一つの例と言えるのです。そのような私たちに

対し、主なる神は今日、「これに聞け」と命じられるのです。目に映る「栄光」は、私たちが誤解させますが、御言葉はそれを避けさせ、「十字架」と「栄光」とを、しかも律法のもたらした栄光を失わせるほどの栄光が十字架にあるという事実を、確かに結びつ

けて、私たちの心に刻むのです。

今日、主の変容の日曜日は、顕現後最終主日にあたりませんが、顕現という季節にあつて、もう一箇所「これに聞け」と同じように命じられている場面があります。それは、主イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受け、水の中から上がったときにほかなりません。今日の変容主日は顕現節最終主日でもありますから、顕現節全体が「これに聞け」という天からの声で囲い込まれていることがわかるのです。この期節が「これに聞け」という主なる神の声によって囲い込まれている事実は、主はあだこうだと私たちが言うのではなく、ただ聞くことが主の望みであることを明らかにしているのです。

私たちが深く憐れみ、愛し、罪の赦しを実現された、十字架の声は、礼拝のたびに御言葉に聞く私たちに語りかけられます。それは私たちを新たに生かす力となって、私たちのうちであふれるのです。御言葉を通して示される、本物の十字架の栄光の輝きに耳をそばだて、十字架への道を歩まれる主に従う群れとして、今共に歩み始めましょう。（主の変容）

よろしく願います。

内〇〇一

私は数十年前、結婚を期に調布市にある社宅に入居しました。その一軒先に、日本キリスト教団仙川教会がありました。光子が仙川教会に転入しましたので、私も兼ねてよりキリスト教に関心がありましたので、教会に行くようになり、1979年37歳の時、大串元亮牧師により受洗しました。

それから8年後、藤が丘に家を持ち、1987年に転居しました。翌年4月に日本キリスト教団田園江田教会に転会しました。そして、同教会の開拓伝道として、2004年田園都筑伝道所が開設されたので転会しました。その後、2008年4月に教会となりました。私は主に会計担当をして来ました。

高齢となり、既に運転免許を返納していたため、都筑区へ通うのが大変となり、この度、自宅から歩いて通える藤が丘教会に転会させて頂きました。

尚、確か4、5年前に、私が自治会の防犯部長をしていた時、町内会

の夏祭りで、佐藤先生がご協力されておられていたことを覚えています。

まだ分からないことが多いですが、よろしく願います。

私の好きな御言葉は創世記22章14節の「主の山に備えあり」です。

ようこそ 藤が丘教会へ！



導かれて

内〇〇子

昨年12月19日、待降節第4／クリスマス礼拝にて、佐藤牧師より『転入の祈り』をしていただきましたことを心から感謝致しております。

私は、20代の前半、神へのモヤモヤした気持ちから、電話帳で家の近くの教会を探して、初めて礼拝に出席しました。会堂の入り口で、こやかに迎えてくださった高齢の女性の優しい笑顔を、50年以上過ぎた今でも忘れられません。

一年近くの求道生活の後、日本バプテスト連盟水戸教会で、1979年3月22日に洗礼を受けました。バプテストは浸礼ですので、水中から身を起こした時の感動は今でも鮮やかに思い出されます。

その後、結婚し、調布市にある社宅に住みましたが、なんと社宅の一軒先に日本キリスト教団仙川教会がありましたので、仙川教会に転会しました。そのうち、夫も礼拝に出席するようになり受洗しました。

息子の直〇、克〇とも、仙川教会の付属幼稚園に通い、二人とも園児の時に、幼児洗礼を受けました。息子は毎週、幼稚科と小学科の教会学校に出席し、藤が丘に移転するま

で家族4人で教会生活をおくりました。

1988年3月に移転、翌年に、教団の田園江田教会に転会しました。其の後、同教会の開拓伝道により2004年4月に田園都筑伝道所が開設されて、22名の会員が転会しましたが、その群れの一人として田園都筑伝道所に移りました。その当時は、50代後半でしたが歳月の流れとともに、今は、歩いて通える藤が丘教会で礼拝を守れることに感謝致しております。

バプテスト、日本キリスト教団、ルーテルと、異なる教派での信仰生活ですが、「主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ」(エフェソ4章5節)にありますようにイエス・キリストを救い主と信じる信仰に変わりはありません。

これまで、喜びの時も、悲しみの時も、いつも御言葉と讃美歌に支えられ導かれてきました。

そして、これからの人生の4番目の季節を藤が丘教会で礼拝を守りつつ信仰生活を過ごして参りたいと思います。どうぞよろしく願います。



御言葉に生きる 14 気になる聖句

○木○子

「私が来たのは義人を招くためではない、罪人を招くためである」
マタイによる福音書9章13節

●○井○子○さんより
毎年、夏と冬の2回、家族全員で集まっていたのですが、コロナ禍でなくなりまりました。オミクロンが広がる前の12月末、全員(14人)集合でき、楽しいひとときを過ごしました。感謝!!
希望より早くコロナが収束して、讚美歌を一節だけでなく全部、大きな声で歌いたいです。

【編集部より】
皆さん、お変わりありませんか? なかなか会う機会がないまま、時が過ぎていきます。どうぞ一言、近況をお知らせいただき、互いに祈り合いまししょう。ご協力をお願いします。

内容と酷似しているとは長い間感じていました。

比較宗教論、あるいは哲学にも値する普遍的な内容を浅薄な私が語れる訳もなく、ただ広告文への興味から、歎異抄の一部に触れ、検索に助けられて聖句と整合させてみたいと考え、

私にもなんとか分かりそうな、梅原猛氏の全訳注本を手に入れてみました。

「歎異抄は聖書のマタイ伝に比すべきものであるうか」

「この本を書くにあたり、一教団の聖典という立場ではなく日本人の心の古典という見地に立った」という著者の前書きと凡例にも導かれました。

本には、18条からなる歎異抄の第3条「悪人正機説」と「マタイ書9章13節」は宗教のパラドックスである、とあります。私が学生時代最初にこれらの句に触れた時に抱いた感覚がまさにこれで、この両説の理解は、道徳・善悪の価値観といった

「この世的」な解釈だけでは成り立たず、普通に理解しようとするとき然としない思いが強く残ります。

しかし同時に私が感じたのは、浄土真宗もキリスト教もどつともなく懐の深い、優しい宗教であるに違いないという事でした。それぞれに「をや」、「である」と強意している句は、だめで罪深い自分でも、もしかして大丈夫かもしれないと思わせてくれる圧倒的な愛と赦しへの強い信頼感さえ抱かせてくれます。ありがたいことに歳を重ねた今マタイ書の句に対し、自分の価値観ではなく神様を信頼して解釈する力も恵みである、と考える事が出来るようになりました。

もうひとつ興味を惹かれたのが第1条「信心さえすれば、阿弥陀様はどんな人でも救ってくれる。一番肝心なことは信心で、他の善を成す必要はなく、ただ念仏すれば救われる」です。

これはキリスト教において、「律法の行いよつては、だれひとり義とされることがない」ガラテヤ書2章

16節、全ての人は信仰によって義とされると同じ解釈が成り立つ気がします。

「人は心に信じて義とされ、口で告白して救われる」ローマ書10章9、10節、神との人格的な交わりとされるキリスト教の祈りと、他力念仏をどの程度同じと見て良いか、不勉強な私には分かりませんが、異なるふたつの宗教は、しかし大切なことは信仰のみとし、口に出して唱える念仏と信仰の告白とに重きを置いています。

全宇宙的な真理が、洋の東西を超えて偉大な力で罪深い人間を救い導

主日礼拝ライブ配信の回想録

一心地よさを目指してー 5

田〇〇夫

最初に考えた改善策は、先生のスマホにどんな機材を取りつけたら声を大きく綺麗に拾えるかという事でした。そこで、今までのPA機器（*）の操作経験と知人のアドバイス通りに墓地委員会が所有するPA機器を接続して何とか改善できない

こうしていること、そしてその教義は無条件に心を委ねる信仰のみを求めていること、を今更ながら再確認したのは、私にはひとつの希望です。

推測ですが、日本人の無人島の一冊は、こんな混迷と不条理だらけの今だからこそ、人智を超えた救いの中に心の安らぎを得ようとした結果なのかもしれません。

しかし、少なくとも既に救いの約束について知りうる私たちは、このような時期にあつても大いなる安らぎの中で生きて行くことが出来るのではないかと、閉塞感と不安の中に暮らしながらふと感じたことも事実です。

か、とお試して配線し音を出そうとしたのですが、残念ながら想定していたような望ましい結果を得ることができませんでした。次に考えたのは高感度マイクをスマホに取り付けることよって、音声を確実に拾うという方法でした。適当だと思われる高感度マイクの機種を選定し、その機種の評判をネットで調べたり、また知人にも使い勝手を尋ねてみると、ネットの評判も知人の評価も私

の予想を遥かに越えた、5段階評価でいうなら4以上という満点に近く「これだ、このマイクを購入すれば問題は一気に解決する」と自分の中で確信にも似た気持ちを持つこととなり、その思いをさらに確実なものとするために、音響に詳しいメディア委員のかたにもご意見を伺ってみることにしました。

その頃からだと記憶していますが「今後は一人で考えて対処するのではなく、みんなで知恵を出し合って進めてゆこう。」と思い始め、実質2人だったメディア委員を増やすべく、お誘いを断られるかもしれないとの不安な気持ちを持ちつつも「一緒にメディア委員を担っていただけませんか。」と「一緒にライブ配信をおこなっていただけますか。」と、その時々目ぼしい人に声をかけ勧誘作戦を展開させて頂きました。すると予想に反し皆さんからの反応はとも良く二つ返事で引き受けてくださり、何とメディア委員会発足以来の最高6人（2021年6月現在）という大所帯となりました。

*PA機器とは…マイクやアンプ、スピーカーなどの音響機器・放送設備の総称。

備の総称。

IV) 試練の時(2020~21)

2020年夏の役員会に、高感度マイク購入の提案をさせて頂きました。しかし、性能のよいマイクの値段がかなり高額だったこともあり、役員の中から「今後の配信を見据えるならば、ちよこちよこ経費を捻出して改善してゆくより、ライブ配信機材をこれを機会にしつかりと揃えた方が望ましいのではないか」というご意見と、「今、ある機材に手を加えて何とか出来るのではないか」とのご意見が出され、その時の結論としては「取り敢えず経費を賄わずに手を加えて改善する方向で考えましょう」という事となりました。がしかし、思い描いたように事が進まず、また小手先の改善では目立った効果が見られなかったことから再度役員会で協議されることとなり、幾度かの話し合いの結果、配信に必要な環境整備に対する経費の支出了承との決定がくだされ、その後一気にライブ配信環境の全面的な見直しと、それに見合う機材調達へと話が進んでゆきました。

『ウクライナに平和の回復を』
ルーテル世界連盟の声明に、私たち日本福音ルーテル
教会は賛同します。

ルーテル世界連盟は、ウクライナに対するロシアの軍事攻撃を深く憂慮します。

命が失われ、傷つけられ、資産は破壊され、人々は退去させられ、緊張が高まっており、ウクライナとその周辺地域において、またヨーロッパ全土に渡って、紛争は深刻かつ危険な状況に向かっていきます。

キリスト者として、私たちは平和の使者であることへと召し出されています。「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ5章9節)。「それゆえに、私たちはあらゆる形態の暴力を非難します。

私たちは即時停戦と平和の回復を求めます。人権ならびに国際人道法は、この紛争における全ての関係者によって尊重されなければなりません。民間人と民間のイン

フラストラクチャーは守られなければなりません。

退去させられ、緊急の人道支援を必要としている人々を含め、影響を受けたウクライナの人々との国際的な連帯を私たちは求めます。国境を開放し、戦争行為から逃れてくる人々を迎えることを各国政府に求めます。

ウクライナおよび、基本的な生活必需品、避難所、牧会的・心理的支援を含む援助を提供する周辺諸国にある教会への支援を私たちは求めます。

平和が勝利しなくてはなりません。人間の尊厳が守られなければなりません。

2022年2月25日

ルーテル世界連盟事務局長

アンネ・ブルクハルト

今月の受洗記念日の皆さん

5日 田〇〇一郎兄 田〇〇〇るみ姉

22日 内〇〇子姉

23日 津〇〇子姉

26日 〇谷〇介兄、〇本美〇子姉

31日 〇井〇樹兄、〇谷〇美姉

おめでとーございます。



■牧師室より

皆さん、お変わりなくお過ごしでしょうか。ウクライナ情勢に心を痛めておられることでしょう。

近隣諸国のルーテル教会はすでに支援（物資、避難所、精神的支援）を開始、あるいは準備を進めています。

なかでも『ウクライナ・ドイツ福音ルーテル教会』は現地での人道的支援に当たっています。ルーテル世界連盟は、人道主義の原則と国際的基準に従って、困窮のうちにあるすべての住民に対する人道援助を提

供する加盟教会を支援し、コーディネートするとしています。

日本福音ルーテル教会は、上記の通り、ルーテル世界連盟の声明に賛同し、すでに連帯献金より100万円を送金いたしました。また、第一期として、5月末をめどに、全国の教会に支援募金を開始しました。

藤が丘教会でも、役員会で相談し、皆さんに募金をお願いする（6日より）ことにしました。連帯献金を通じて、現地での必要とされるすべての人々への支援のために、用いていただきたいと考えています。（佐藤）